ソフトウェア開発を成功に導くためのプロセス管理

山田裕子*　佐々木俊昌**
安田光宏*　藤原良一***
長江雅史*

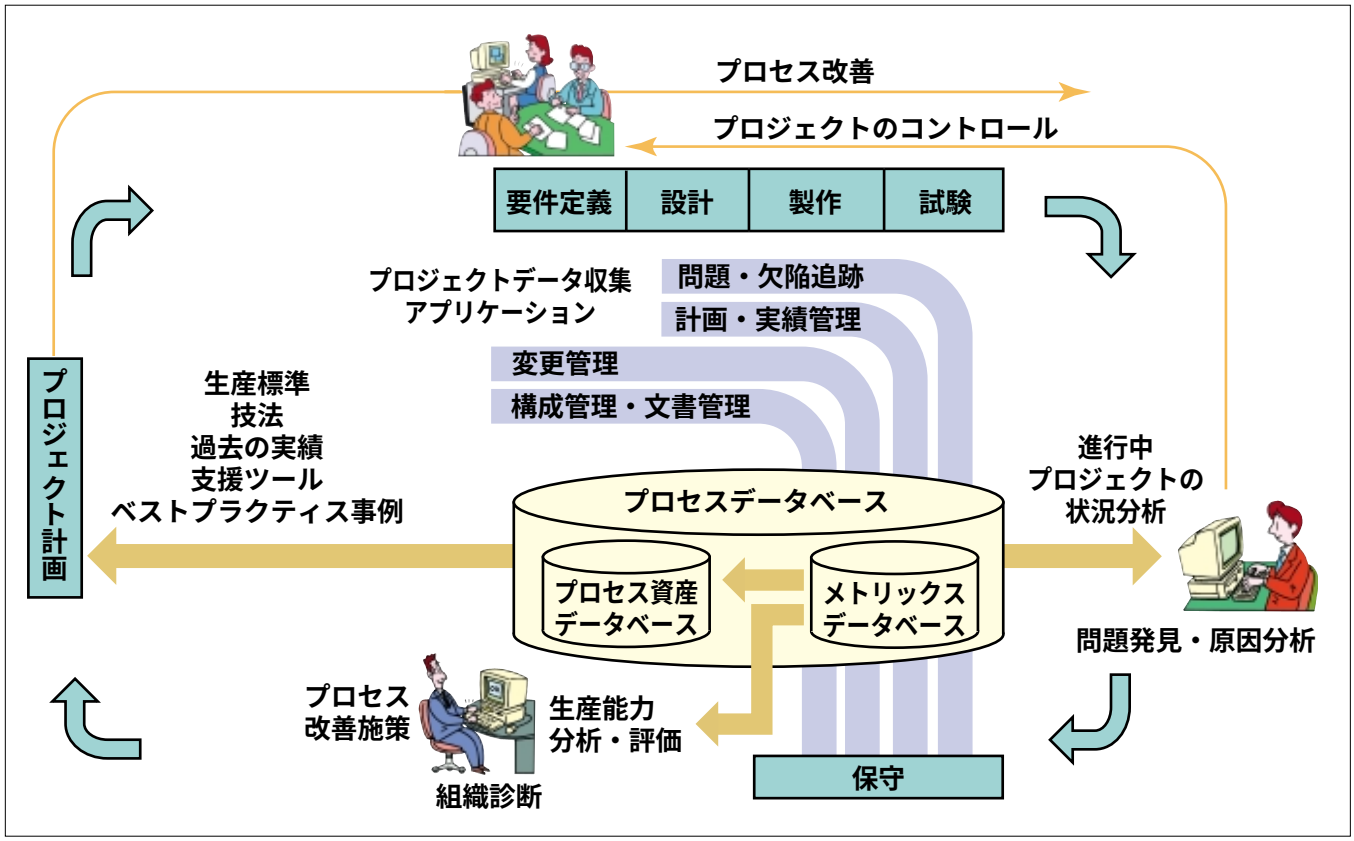
要　旨

情報システムの開発のみならず組込みシステムの開発においても，インターネット対応機能のサポートなどにより，急激な開発規模の増大と開発期間の短縮という変化に直面している。製品開発をビジネスとしての成功に導くためには規模が増大したソフトウェア開発の飛躍的な生産性の改善が求められるが，実際の開発の現場では，開発対象のプログラムコードが小規模だったころのプロジェクトマネージャー個人の能力に依存した管理形態が引き続き行われているケースも散見される。

このような背景から，三菱電機では，組織としての開発プロセスを明確に定義し，ソフトウェア開発という活動を可視化するための情報インフラを整備し，それを用いてソフトウェア開発プロセスに発生する問題点をいち早く発見し，的確なタイミングでコントロールする仕組み作りと，その普及・展開活動を進めている。

本稿では，この開発プロセスの標準化とその定着を円滑に進めるためのソフトウェア開発管理システムの構想とその整備・適用状況について述べる。

今後，更に統合されたマネジメントシステムの確立を目指し，活動を推進していく。



ソフトウェア開発のライフサイクルと開発管理をサポートする情報インフラ

ソフトウェア開発の現場で使用されている各種管理ツールから開発活動に関するデータを収集し，プロセスデータベースに蓄積する。このデータは，開発完了後に，次期類似開発のプロジェクト計画の精度の向上や実施したプロセス改善策の評価に利用される。また，プロセス改善の成熟度の高い組織では，現在進行中のプロジェクトの状況診断にも活用しており，大規模プロジェクトに発生する問題への速やかな対策の実施を可能とする。

*三菱電機㈱ 設計システム技術センター　**同社 鎌倉製作所　***三菱電機インフォメーションシステムズ㈱